

浅野：浅野でございます。

2025 年 3 月期の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、オンラインでご参加いただいている皆様にも御礼申し上げます。

それでは、早速ですけれども、説明に入りたいと思います。

エグゼクティブサマリー（1/2）



2025年3月期 通期実績（対前年）

大幅な増収増益、売上高5,000億円を超え、営業利益・当期利益ともに過去最高

前年同期比 売上高：110.2%、営業利益：111.7%、当期利益：108.1%

- XRTTMシリーズのグローバル展開や血液凝固分野の直接販売効果、新興国の成長機会の獲得など成長戦略が奏功し、全地域で増収を達成
- 販管費の適切なコントロールや増収・円安の効果もあり、営業利益は大幅増益

対計画については、売上高は想定どおり進捗、のれん減損損失の影響を除くと営業利益も計画達成

2026年3月期 業績見通し

外部環境の変化はあるものの、ビジネスは堅調に推移しており、増収増益を計画

- ヘマトロジー、血液凝固分野を中心とした既存事業において、着実に需要を獲得
- インド新生産拠点設立やブラジル、サウジアラビアの直販化など、これまで取り組んできた新興国市場の基盤強化の効果を発揮
- 米国相互関税や中国政府方針の強化などの外部環境変化にも迅速に対応、影響を最小限に抑える

5

まず、エグゼクティブサマリーです。5 ページへお進みください。

2024 年度の売上は対前年比 110.2%の 5,086.4 億円、営業利益は海外事業会社であるシスメックスパルテックののれんの減損 31.7 億円があったものの、対前年比 111.7%の 875.8 億円、当期利益は対前年比 108.1%の 536.6 億円で、大幅増収増益、売上高・営業利益・当期利益ともに過去最高を達成するとともに、売上高 5,000 億円を突破いたしました。減損を除くと、営業利益は 908 億円で、公表値を超えておりました。

2025 年度は、米国の相互関税や円高など不透明な要素もありますが、ビジネスは好調に推移しておりまして、それらの要素を勘案した上でも増収増益を計画しております。

エグゼクティブサマリー（2/2）



サステナビリティ経営

- 「DJSI World Index」に9年連続選定、**ヘルスケア機器業界で最高位を獲得**
- **取締役会の多様性を強化**（新たに社外取締役を選任予定）
- **業績連動型株式報酬を導入**し、役員報酬と業績・株価の連動性を高め、より資本コストを意識した経営を推進する ※2025年8月から適用
※58期定時株主総会に付議する予定

株主還元

- 2025年3月期の配当を期初予定より**2円増配**し、32円とする
- 今後の株主還元方針として、連結での配当性向を**30%から40%目処へ変更**し、**累進配当**とする
※2026年3月期から適用
※58期定時株主総会に付議する予定

6

6 ページへお進みください。

サステナビリティ経営という観点からは、弊社は「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に9年連続で選定されるとともに、ヘルスケア機器業界において最高位を獲得いたしました。

ガバナンス面では、このたび新たに女性の社外取締役をお迎えする予定であるとともに、役員に対し、業績連動型の株主報酬を導入することといたしました。

また、株主還元でございますが、減損がなければ、期初予想に対し38億円の増益でしたので、配当は期初予想の30円から2円増やして、32円としたいと思います。

また、今後の方針として、配当性向を30%から40%をめどとし、累進配当としたいと思います。

決算総括（対前年）



(億円)	2025年3月期		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	5,086.4	100%	4,615.1	100.0%	110.2%
売上原価	2,366.6	46.5%	2,190.1	47.5%	108.1%
販売費及び一般管理費	1,508.4	29.7%	1,337.9	29.0%	112.7%
研究開発費*	314.5	6.2%	314.0	6.8%	100.2%
その他の営業損益	△20.8	△0.4%	10.8	0.2%	-
営業利益	875.8	17.2%	783.8	17.0%	111.7%
親会社の所有者に帰属する当期利益	536.6	10.6%	496.3	10.8%	108.1%

- **売上高**：試薬売上が継続して伸長するなど、全地域で増収、過去最高を達成
- **その他の営業損益**：のれん減損損失△31.7億円を含む
- **営業利益**：粗利益の増加に加え円安の効果もあり、2桁増益、過去最高を達成
 ✓ 為替の影響 売上高 +154.8億円、販売費 +41.7億円、営業利益 +85.6億円（未実現利益の特殊要因20億円除く）
- **当期利益**：+8.1%の増益 為替差損益：△38.5億円（前年同期比△43.6億円）

* 自己創設無形資産 計上分を含めると、前年同期比107%



8

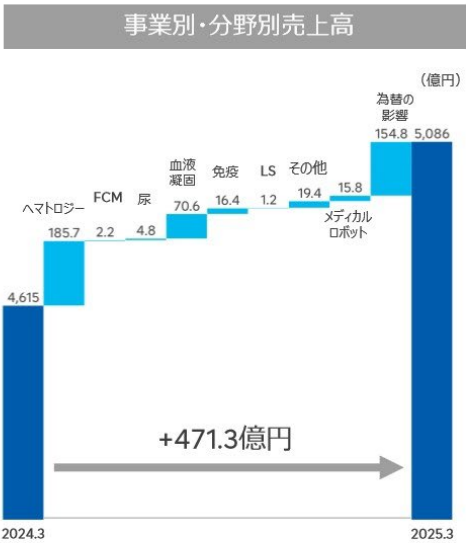
8 ページへお進みください。まず、決算総括でございます。

売上は、ヘマトロジー分野のXR シリーズが好調に推移したことや、インドやブラジル、サウジアラビアなど新興国の成長、欧米における血液凝固分野の直販化などにより、全地域で増収を達成しました。為替の追い風もあり、対前年 10.2%増の 5,086.4 億円となり、過去最高の売上高を達成いたしました。為替の影響を除いても、地域で少しでこぼこありますが、約 7%の成長を実現できております。

営業利益につきましても、増収による粗利益の増加に加え、プロダクトミックスやコストダウンなどにより原価率が改善し、のれんの減損があったものの、対前年 11.7%増の 875.8 億円となり、また当期利益は対前年 8.1%増の 536.6 億円となり、いずれも過去最高となりました。

研究開発費は、PL 上は微増となっていますが、PL に計上されない自己創設資産分があり、それらを加えると、前年比で 7%程度増加しております。これは、商品開発の最終段階のもの比率が増えているということを意味しています。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



ダイアグノスティクス事業はヘマトロジー、血液凝固分野を中心に全分野で増収。メディカルロボット事業も順調に推移し、増収

(億円)	2025年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	5,086.4	100.0%	110.2%	106.9%
ヘマトロジー	3,032.0	59.6%	110.3%	106.8%
FCM	36.3	0.7%	109.6%	106.7%
尿	408.3	8.0%	104.6%	101.2%
血液凝固	823.4	16.2%	112.9%	109.7%
免疫	258.7	5.1%	109.4%	106.9%
生化学	36.3	0.7%	107.5%	105.1%
ライフサイエンス	213.2	4.2%	104.0%	100.6%
その他	224.1	4.4%	111.9%	108.9%
ダイアグノスティクス事業	5,032.7	98.9%	109.9%	106.6%
メディカルロボット事業	53.7	1.1%	143.4%	142.3%

9

9 ページへお進みください。事業・分野別の売上の状況です。

ヘマトロジー分野におきましては、XR シリーズを導入した地域や新興国で大きく伸長いたしました。

血液凝固分野や免疫分野も試薬の売上が好調に推移し、全ての事業分野で増益となりました。

また、メディカルロボット事業は、後ほどご説明いたしますが、大幅な伸長となっております。

売上高の増減要因（地域別・品目別）



全地域、全品目で増収。機器設置台数増加にともない、試薬も好調に推移

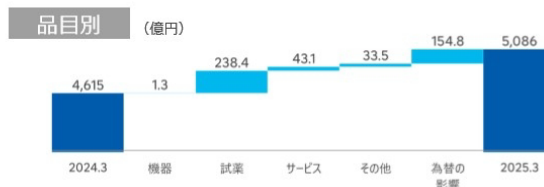
(億円)	2025年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	5,086.4	100.0%	110.2%	106.9%※
米州	1,311.4	25.8%	110.4%	104.8%※
EMEA	1,403.9	27.6%	112.0%	107.4%※
中国	1,179.7	23.2%	107.3%	103.1%※
AP	513.3	10.1%	113.5%	111.0%※
日本	677.8	13.3%	109.0%※	-
機器	1,042.5	20.5%	103.3%	100.1%※
試薬	3,138.1	61.7%	111.7%	108.5%※
サービス	684.1	13.5%	111.3%	107.0%※
その他	221.5	4.4%	121.3%	118.3%※

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸び率



地域別の主な成長要因

米州	・ 試薬が全分野で伸長したことが寄与し、 増収を達成
EMEA	・ XRシリーズの市場導入や血液凝固分野の直販効果などにより、 増収を達成
中国	・ 機器売上が前年同等まで回復、試薬はヘマトロジー、血液凝固分野を中心に伸長し、 増収を達成
AP	・ インドをはじめ各国好調に推移し、機器、試薬とも 2桁伸長、増収を達成
日本	・ ダイアグノスティクス事業はヘマトロジー・血液凝固分野が2桁伸長するなど好調に推移。メディカルロボット事業も伸長し、 増収を達成



10

10 ページへお進みください。次に、地域・品目別の売上増減要因です。

各地域の詳細は後のスライドでご説明いたしますが、現地通貨ベースで全地域増収、特にアジア・パシフィックは好調で、2桁成長となりました。

品目別では、機器売上が昨年度並みとなっていますが、成長を牽引している新興国では商習慣上、リース売りが多いため、実際の単年度設置台数はこの売上数値よりも伸びていると考えています。

試薬売上は、累積設置台数の増加に伴い、全分野・全地域で大幅な増収となりました。

米州（地域別）



(Million USD)	2025年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	859.8	820.7	104.8%	110.4%
機器	190.1	214.7	88.6%	93.4%
試薬	433.2	392.3	110.4%	116.3%
サービス・その他	236.4	213.7	110.6%	116.6%

売上高推移 (Million USD)



機器設置台数増加などに伴い、試薬が全分野で伸長したことが寄与し、増収を達成

● 機器

- ✓ 北米での納品遅延などにより減収となるも、血液凝固分野は直販効果により堅調に推移
- ✓ ハマトロジー分野においても高いリテンション率・獲得率を維持

● 試薬

- ✓ ハマトロジーや尿分野における機器設置台数増が牽引し増収
- ✓ 血液凝固分野、免疫分野のアミロイドβ検査試薬（売上高 6.6 million USD）も、堅調に推移

11

11 ページへお進みください。まず、米州です。

米州ですが、機器売上は、尿分野が前年度の大型案件の反動や、受注したシステムの納品タイミングの遅延が生じ減収となりましたが、下期は回復しております。米国におけるハマトロジー分野のリテンション率はほぼ 100%、案件の勝率も約 90%と、圧倒的な強さを維持していることから、試薬売上は機器の累積設置台数増加により 2 桁伸長し、増収となりました。

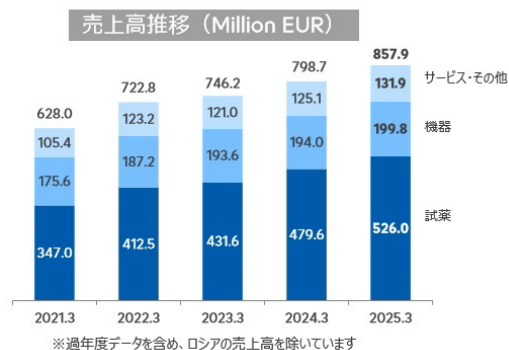
血液凝固分野は、計画よりは若干スローであります。販売網の整備を行い、徐々に立ち上がってきています。

また、アルツハイマー病検査関連試薬も堅調に売上を伸ばし、通期で 6.6 ミリオンドルとなりました。

EMEA（地域別）



(Million EUR)	2025年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	857.9	798.7	107.4%	112.0%
機器	199.8	194.0	103.0%	107.2%
試薬	526.0	479.6	109.7%	114.4%
サービス・その他	131.9	125.1	105.4%	110.1%



ヘマトロジー分野の機器伸長に加え、尿・血液凝固分野の試薬売上が2桁伸長するなど、各国好調に推移し、増収

● 機器

- ✓ XRシリーズの市場導入が着実に進み、ヘマトロジー分野が好調に推移し、増収
- ✓ 血液凝固分野は、自社設置台数が増加

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野において、ドイツ・イギリスや直販化したサウジアラビアなどで好調に推移
- ✓ 尿分野においてもドイツを中心に伸長した他、血液凝固分野のOEM契約による販売も好調に推移し、増収

12

12 ページへお進みください。次に、EMEA です。

EMEA につきましては、機器はXR シリーズを中心としてヘマトロジー分野が好調、試薬はヘマトロジー、血液凝固分野の試薬が好調に推移し、増収となりました。

血液凝固機器は、自社販売の機器は順調に設置が進んでおります。

また、新興国ではサウジアラビアの販売が順調です。

中国（地域別）



(Million CNY)	2025年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	5,605.4	5,437.4	103.1%	107.3%
機器	738.3	745.0	99.1%	103.2%
試薬	4,148.4	4,043.9	102.6%	106.8%
サービス・その他	718.6	648.4	110.8%	115.0%

機器は、下期は2桁伸長を達成。試薬は集中購買などの影響により4Qで減速するも、通期で増収を達成



● 機器

- ✓ 血液凝固分野の上期の影響により減収も、主要製品のノックダウン生産が開始されたヘマトロジー・尿・免疫分野は好調に推移
- ✓ 血液凝固分野も、2Q以降ノックダウン生産品効果により、下期は30%を超える大幅伸長

● 試薬

- ✓ 3級病院を中心に外来患者数の増加、機器設置台数の増加もあり、ヘマトロジー・血液凝固分野が伸長し、増収
- ✓ 免疫分野は集中購買等の影響により単価は減少するも、検査数増加により前年同等

13

13 ページへお進みください。中国です。

中国におきましては、機器は現地通貨ベースで、上期は前年度比減収となっておりましたが、下期はノックダウン生産の効果により2桁成長となり、通期では前年並みまで回復いたしました。

試薬は、下期から免疫分野試薬の集中購買が開始され、試薬単価が大幅に下がりましたが、販売量が増加し、結果として免疫分野試薬の売上は、通期では昨年並みとなっています。

血液凝固分野の試薬については、順調に推移いたしました。

AP（地域別）

※ロシア売上高を含むデータへ変更

（億円）	2025年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	513.3	452.4	113.5% (111.0%)
ダイアグノスティクス事業	507.7	452.4	112.2%
機器	103.6	96.7	107.1%
試薬	351.1	303.6	115.7%
サービス・その他	52.8	52.0	101.7%
メディカルロボット事業	5.6	-	-

*()は為替の影響を除いた場合



機器設置台数増加に伴い、試薬売上が好調に推移し、各国の成長をけん引。メディカルロボット事業の展開も開始。

ダイアグノスティクス事業

● 機器

✓ ハマトロジー分野がインドやオーストラリアを中心に伸長し、増収

● 試薬

✓ ハマトロジー・尿分野は、インドを中心に各国での機器設置台数の増加に伴い、好調に推移。血液凝固分野もベトナムで大幅伸長するなど全分野で2桁伸長し、増収

メディカルロボット事業

✓ 累計導入台数：3台

✓ 初症例も実施、手術数も順調に増加

14

14 ページへお進みください。アジア・パシフィックです。

アジア・パシフィックについては、インドをはじめとする各国政府の医療インフラ投資が継続しており、機器・試薬・サービスともに好調で、2桁伸長を達成しました。特にインドは好調で、約30%の成長となっています。

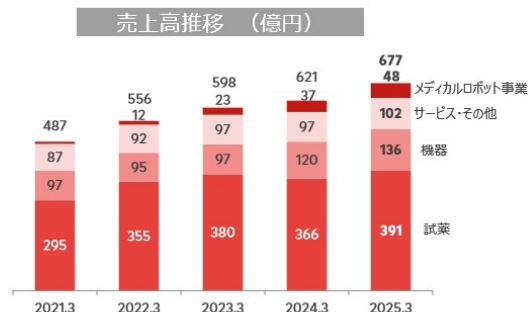
先日、インドの新工場も稼働し、製品の出荷が開始されました。アジア・パシフィックについては存在感がある規模となりつつあり、当社の成長を牽引する地域として、今後も好調が期待されます。

また、「hinotori」のグローバル展開の先駆けとして、シンガポールおよびマレーシアで3台導入されました。シンガポールでは既に100症例近い手術が行われており、極めて順調です。さらに、EMEAでの申請も完了し、今年度中に発売する予定です。

日本（地域別）



（億円）	2025年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	677.8	621.8	109.0%
ダイアグノスティクス事業	629.7	584.3	107.8%
機器	136.0	120.8	112.6%
試薬	391.4	366.3	106.9%
サービス・その他	102.3	97.2	105.3%
メディカルロボット事業	48.0	37.4	128.3%



ヘマトロジー・血液凝固分野が機器・試薬ともに2桁伸長。
メディカルロボット事業も好調に推移し、増収を達成

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野のXRシリーズが好調に推移したほか、血液凝固分野でも着実に機器設置台数が増加し、増収

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野の機器設置台数増加に加え、血液凝固分野の他社機器攻略や採用項目拡大により伸長し、増収

メディカルロボット事業

- ✓ 今期導入台数：31台、累計台数：86台
- ✓ 導入台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上が増加

15

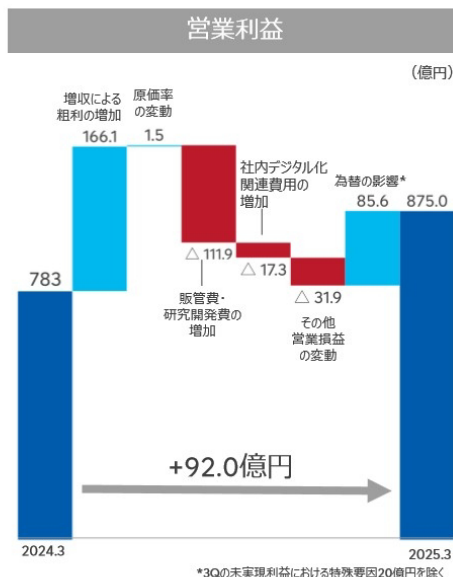
15 ページへお進みください。最後に、日本です。

日本におきましては、ヘマトロジー分野のXRシリーズ、血液凝固機器が好調でした。それに伴い、試薬も好調で、機器・試薬とも2桁増収を達成いたしました。

メディカルロボット事業については、2025年3月期に新たに31台導入され、海外の3台に加えて、トータルで34台導入されました。目標には少し届きませんでしたが、販売に勢いが出てきました。

グローバルでの累積設置台数は89台、累積症例数は9,400症例を超え、100台、1万症例到達も目前となっています。

営業利益の増減要因



- 増収による粗利の増加：+166.1億円
- 原価率の変動影響：1.5億円（0.1pt改善）
 - ✓ 改善要因：プロダクトミックス 0.5pt
 - ✓ 悪化要因：製品等の原価 0.3pt、サービスコスト 0.1pt、輸送費 0.1pt
- 販売管理費・研究開発費の増減影響：△111.9億円
 - ✓ 労務費：規模拡大に伴う人員増や単価増などによる増加：約82億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約21億円
 - ※ 研究開発費の増加：0.5億円
自己創設無形資産を含む日本基準での研究開発費は、+7%と投資を継続
- 社内デジタル化関連費用の増減影響：△17.3億円
- その他営業損益の増減影響：△31.9億円
 - ✓ のれん減損損失△31.7億円
- 為替の影響：+85.6億円（未実現利益の特殊要因20億円除く）

16

16 ページへお進みください。営業利益の増減要因です。

営業利益ですが、売上増による粗利の増加やプロダクトミックス、コストダウンによる原価率の改善などにより、大幅増益となりました。

販管費は、ビジネス拡大に伴う人件費増や販売促進費の増加などにより、前年度より170億円増加、加えて、社内のデジタル化費用もグローバルでの実装で17億円増加しましたが、計画範囲内です。

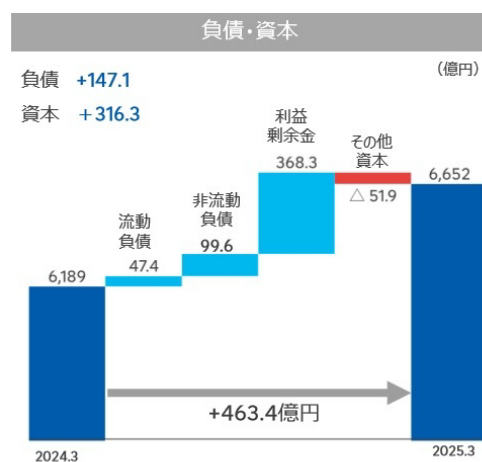
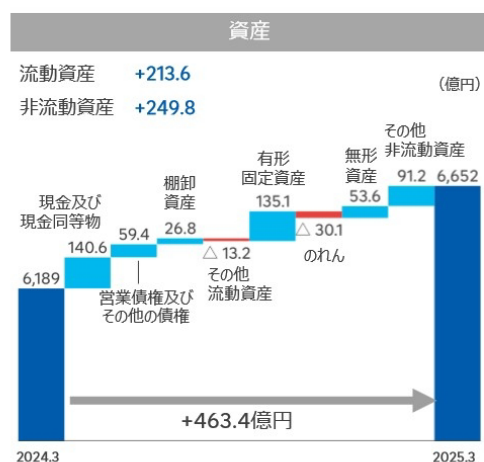
先ほどご説明したとおり、研究開発費は、引き続き研究開発テーマの精査を進めており、PL上は昨年度並みとなっていますが、これ以外に商品開発への投資を進めています。

のれんの減損31.7億円もありましたが、約92億円の大幅な増益となりました。

連結財政状態計算書の増減要因



資産はのれん減損損失によりのれんが減少も、現金及び現金同等物などが増加。資本は当期利益増加により、利益剰余金が増加



17

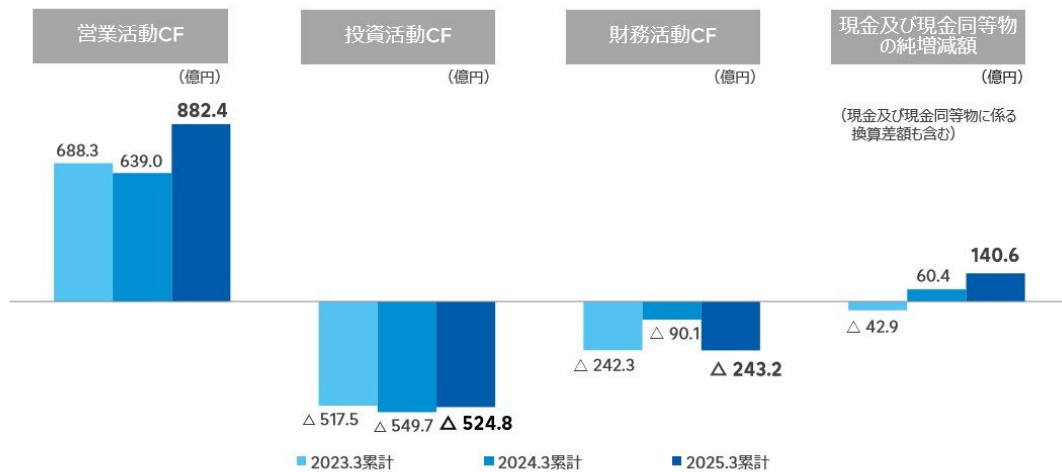
17 ページへお進みください。

連結財政状態はご覧のとおりです。

キャッシュフローの推移



税引前利益の増加や売上債権の回収などにより、営業活動CFが大幅に増加



18

18 ページへお進みください。キャッシュフローの推移です。

営業キャッシュフローは、税引前利益の増加や売上債権の回収により、前年度より 243.4 億円増加いたしました。

また、社内デジタル化や新興国における拠点整備など、前年同様の投資を実施いたしました。

これらの結果、期末の現金及び現金同等物は、前年度より 140.6 億円増加しております。

2025年3月期配当（案）



- 配当額は期初予想から2円増配

	中間	期末	年間	配当性向
2024年3月期	14円	14円	28円	35.4%
2025年3月期 (期初予想)	15円	15円	30円	35.0%
2025年3月期 (案)	15円	17円※	32円	37.4%

※2025年3月の期末配当は、58期定時株主総会に付議する予定

19

19 ページへお進みください。

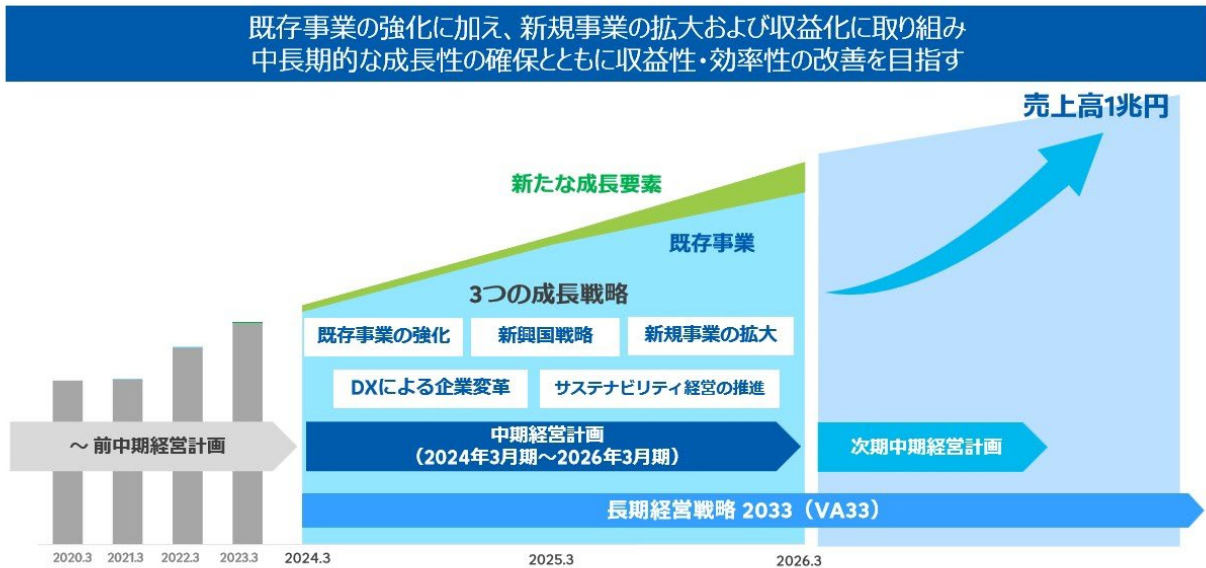
業績が好調でしたので、配当を、期初予定の 30 円から 2 円増やして、32 円としたいと思います。昨年度からは 4 円の増配となります。

3. 中期経営計画の進捗

20 ページへお進みください。

ここより、中期経営計画の進捗についてご説明いたします。

中期経営計画の全体像



21

21 ページへ進みください。

まず現在の中期経営計画ですが、2024 年 3 月期から 2026 年 3 月期の 3 年間の計画で、現時点で 2 年を経過し、今年度はその最終年度に当たります。

現中期経営計画では、3 つの成長戦略、すなわち既存事業の強化、新興国戦略、新規事業の拡大を掲げ、成長に向けた取り組みを推進しています。また、DX による企業変革、サステナビリティ経営の強化にも取り組んでいます。

ここでは、現在の中期経営計画の進捗や課題をお示しするとともに、次期中期経営計画に向けたポイントもお示ししたいと思います。

3つの成長戦略：既存事業の強化（1）



ヘマトロジー分野	尿分野
✓ 進捗 - XRシリーズのグローバル導入開始 - 周辺装置（BT-50等）による市場競争力強化 - 機器設置台数の伸長により、試薬売上が拡大 ✓ 今後の予定 - 米州でのXRシリーズ販売開始	✓ 進捗 - 中下位市場向け製品の導入（UF-1500） - 北米でのUNシリーズの販売拡大 ✓ 今後の予定 - 旧機器使用施設の置換推進
免疫分野	ライフサイエンス
✓ 進捗 - 検査項目数の拡大（2025年3月：61項目） - アルツハイマー病検査試薬の上市、米国LDT検査開始 - 中国集中購買の影響等を受け、売上高は想定を下回る ✓ 今後の予定 - アルツハイマー病検査項目の拡大、パネル化 - 検査項目数の更なる拡大	✓ 進捗 - 事業の収益化に向けた、ピボット実施 - シスメックス アイノスティクスを再編、一部子会社の清算開始 - 研究開発テーマの絞り込み ✓ 今後の予定 - アライアンス製品の展開加速 - 製品ポートフォリオの再構築

22

22 ページへお進みください。まず、3つの成長戦略の一つ目である既存事業の強化です。

ヘマトロジー分野は、ここに記載のとおり、各地域でXRシリーズの販売が好調に推移しています。今年度はいよいよ米州での販売を予定しており、中期経営計画の目標を超えて達成見込みです。

免疫分野は、中国における大きな成長を期待しておりましたが、集中購買による価格下落により、目標値からはビハインドとなっています。しかし、販売量的には計画どおり拡大しておりますので、原価低減、販売スキームの変更、あるいは地域拡大等を図って、収益の拡大を図っていきたいと思っております。また、アルツハイマー病検査につきましては、米国で既に約10億円の売上があり、さらにグローバル展開を進めてまいります。

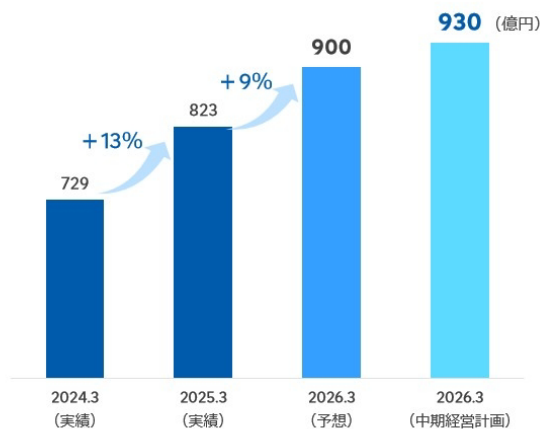
ライフサイエンスについては、収益化を目指して事業のピボットを実施しました。大きな赤字を抱えていたアイノスティクスについては、既に米国のシスメックス アイノスティクスのシャットダウンを進めており、シャットダウンに伴う費用も2025年3月期に計上しております。また、研究開発テーマも整理し、収益が見込めるテーマに集中投下しております。これらにより、ライフサイエンス事業の収益化に向けて、現在、歩を進めております。

3つの成長戦略：既存事業の強化（2）



血液凝固分野

■血液凝固分野売上高推移



✓ 進捗

- ・ シーメンスとの契約変更、欧米地域での直販開始
- ・ 他社切替含む案件数の増加、試薬販売の伸長

✓ 今後の予定

- ・ 米州CNシリーズ販売開始により、欧米ビジネスを加速
- ・ 試薬採用項目拡大による、収益性向上



全自動血液凝固測定装置 CN™-6500/CN™-3500 全自動血液凝固測定装置 CS-1600™

23

23 ページへお進みください。

血液凝固分野は、欧米市場での直販が開始されました。欧州はほぼ予定どおり、米州については計画に対し少し遅れを生じ、中計目標値に対して若干ビハインドですが、ほぼ計画ラインです。

2026年3月期は、米国でのCNシリーズの発売も予定され、販売は加速すると思っております。

3つの成長戦略：新興国戦略



各地域の取り組みが奏功し、大幅伸長。計画を前倒しで達成見込み

インド売上高推移（億円）



✓ 進捗

- ・ インドに新生産拠点設立
- ・ サウジアラビアなど直販エリアの売上拡大
- ・ ケニアに現地法人設立

ブラジル売上高推移（Million USD）



✓ 今後の予定

- ・ Make in Indiaに対応した機器の販売開始
- ・ 直販エリアでのサービス&サポートの強化
- ・ ブラジルにおいて新生産拠点設立の準備開始

META売上高推移（Million EUR）



*META: Middle East, Turkey, Africa地域



インド新生産拠点稼働開始



インド市場向け
多項目自動血球計数装置 XQ-320

24

24 ページへお進みください。3つの成長戦略の二つ目、新興国戦略です。

インド、ブラジル、そして中東・アフリカ領域、当社ではMETAと呼んでますが、これらの領域において販売が拡大し、最終的には中期経営計画の目標値を超える予定です。

インドの新工場も竣工し、既に生産を開始いたしました。この工場で生産される製品は、Make in India 対応、すなわち現地のサプライヤーさんの部品を一定比率使用して生産するもので、今年度の上期中には出荷予定です。

Make in India の対応は、競合ではまだ対応できておらず、アドバンテージになります。また、このノウハウは、今後中国での製造にも生かされると思っております。

インドをはじめとするグローバルサウスは、今後さらに規模も拡大し、シスメックスの成長を牽引する地域と期待しております。

3つの成長戦略：新規事業の拡大



メディカルロボット事業

計画より遅延も、国内設置台数および症例数が増加
海外市場導入を開始し、事業拡大フェーズへ

■ hinotori™グローバル累積台数推移



■ hinotoriグローバル累積症例数推移



再生細胞医療

再生細胞医療の「品質管理」、「製造の自動化」、
「製剤開発」に寄与

✓ 進捗

- ・ 移植細胞の生着機能や機能発現の指標となる分泌タンパク質の測定試薬（HISCL™）を上市
- ・ Gaudi Clinical との業務提携及び資本提携による品質管理事業の拡大



HISCL™ VEGF 試薬
HISCL™ PEDF 試薬
(研究用)



キオスク型細胞調製室

25

25 ページへお進みください。新規事業の拡大です。

まず、メディカルロボット事業「hinotori」は、先ほど申し上げたとおり、設置台数・症例数とも伸びてきました。中計に対しては、売上がリース等の販売スキームの関係で、売上高自体は大幅未達ですが、台数ベースで見ると約1年遅れで推移しています。国内は主要大学病院にはほとんど入りまし、海外展開も開始され、「hinotori」はいよいよ事業成長フェーズに入りました。

再生細胞医療については、「品質管理」「製造の自動化」「製剤開発」の三つをターゲットとして、オープンイノベーションで推進しております。これらの領域は、シスメックスの技術が生かせる分野として手応えを感じておりますので、次期中期経営計画からは本格的な事業化に向けて進められると考えております。

計画よりも大幅に遅延したものの
グループ全体で業務プロセスの見直しと統一を実現

社内DXによる企業変革

- ✓ 2025年4月グローバルで全システムの稼働開始
- ✓ 基幹システム、その他デジタル基盤の刷新が完了
- ✓ デジタル化による業務効率
 - ・ 市民開発（従業員自ら開発）による業務システム開発の推進

社内AI開発プログラム参加人数 **約780名**
従業員開発アプリ数 **約180**

AIの活用

- ✓ シスメックスが保有する学術・検査データを活用した新たな事業の確立
 - ・ 疾患マネジメントAI（疾患予測、診断支援）
 - ・ 行動変容支援
 - ・ 検査室支援AIによる検査・医療業務の効率化
- ✓ 社内業務の効率化や研究開発の加速



26

26 ページへお進みください。DX による企業変革です。

社内デジタル化については、長い時間と大きな費用をかけて構築してまいりましたが、昨年度をもって、最後の日本地域で完成いたしまして、4月から稼働を開始しております。これで、グローバルなデジタル化が完了しました。投資はようやく終わり、これからはデジタル化による業務の効率化を図ってまいります。

業務改善につきましては、市民開発といって、従業員自らが IT やデジタル情報を使った業務改善プログラムの開発を行っています。

また、AI は、お客様の課題解決やヘルスケアジャーニーの実現に向けてのキー技術となります。現在、シスメックス独自の AI を R&D で開発しております。

サステナビリティ経営の推進



E：環境への負荷低減

- ✓ プラスチック製容器の水平リサイクル実用化
- ✓ 一部冷凍輸送でのドライアイスフリーでの出荷を国内で開始



使用済みプラスチック製
試薬容器

S：魅力ある職場の実現

- ✓ 人的資本経営の推進、ISO 30414認証取得（日本）
- ✓ 信託型株式報酬制度（ESOP）の導入

G：ガバナンスの強化

- ✓ 取締役会の多様性を強化
社外取締役が指名委員会・報酬委員会の委員長就任
2025年6月に新たに社外取締役を選任予定
- ✓ 役員株式報酬制度を導入。財務・企業価値指標を設定

世界的なサステナビリティインデックスに採用

- ✓ DJSI World Indexの構成銘柄に9年連続で選定



ヘルスケア機器業界
ランキング
1位



2024 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

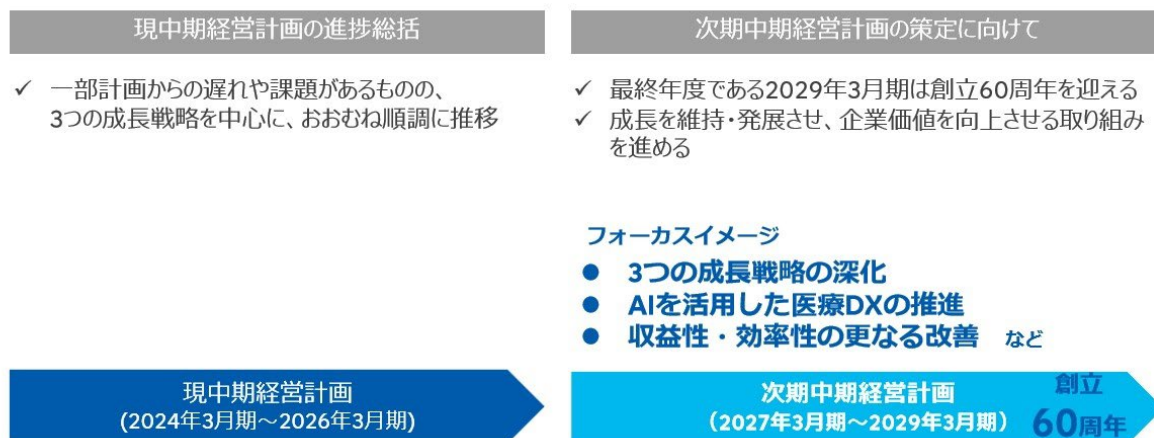


27

27 ページへお進みください。サステナビリティ経営の推進です。

サステナビリティ経営については、環境負荷軽減、人的資本強化、ガバナンス強化について、ここにお示ししているような取り組みを実施しております。そして、社外からもご評価いただいております。

次期中期経営計画の策定に向けて



28

28 ページへお進みください。次期中計に向けてです。

現在の中期経営計画の総括ですが、一部に遅れや課題があるものの、おおむね順調に推移していると思っております。今年度は、目標達成に向けてさらなる努力を行ってまいります。

そして、次期中期経営計画については、現在の取り組みを発展させる、進化させるとともに、現在の中期経営計画でまいた種を育て、事業化を進めていきたいと思っております。

4. 2026年3月期 業績予想

29 ページへお進みください。

ここより、2026 年 3 月期の業績予想でございます。

米国相互関税の影響について



短期間で状況が大きく変化しているため影響額の試算は困難であるが
サプライチェーンの見直しや価格転嫁など、影響を最小限に抑える対応を検討

＜前提＞ 2026年3月期を通じて以下が継続

- － 相互関税 追加関税率10%（対象：主に米国向け機器製品）
- － 鉄鋼・アルミ製品への追加関税25%（対象：主にアルミ・鉄鋼を含む日本産パーツなど）
- － 各国の報復関税影響

年間約30-40億円の売上原価悪化影響を計画へ反映

30

30 ページへお進みください。まず、米国相互関税の影響です。

弊社は試薬の多くを米国で製造しており、影響は日本から輸出される装置ならびにサービスパーツに含まれる鉄・アルミ製品等の特定品目にかかる追加関税で、その影響額は現時点で 30 億円から 40 億円と見積もっており、それを計画に反映しております。

米国で、昨年度末に在庫の積み増しなど、可能な対策を実施してまいりましたので、影響はより緩和できると考えており、状況に応じて対応していきたいと思っております。

2026年3月期 業績予想



外部環境の変化はあるものの、ビジネスは堅調に推移しており、増収増益を計画

(億円)	2026年3月期		2025年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	5,350	100.0%	5,086.4	100.0%	+5.2%
売上原価	2,510	46.9%	2,366.6	46.5%	+6.1%
販売費及び一般管理費	1,610	30.1%	1,508.4	29.7%	+6.7%
研究開発費	330	6.2%	314.5	6.2%	+4.9%
営業利益	915	17.1%	875.8	17.2%	+4.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益	570	10.8%	536.6	10.6%	+6.2%

投資計画

設備投資 500億円

減価償却費 450億円

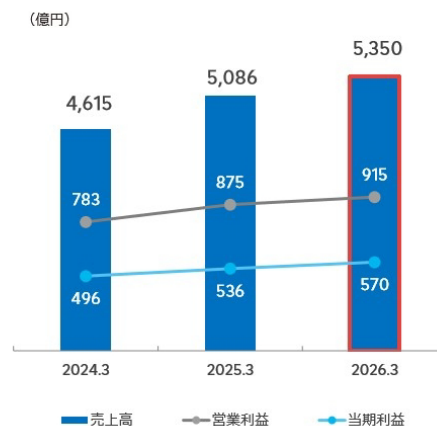
● 想定為替レート

	通期想定	前期実績 (25年3月期)
1 USD	142.0円	152.6円
1 EUR	160.0円	163.8円
1 CNY	19.5円	21.1円

● 為替感応度の概算値

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	8.1億円	1.1億円
EUR	6.0億円	0.5億円
CNY*	5.8億円	4.3億円

*0.1円変動時



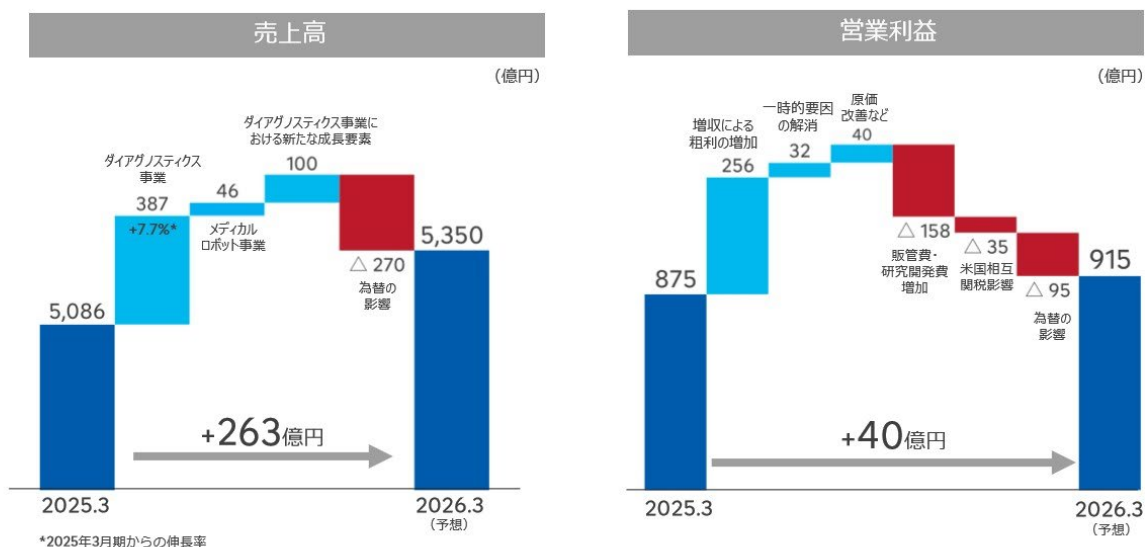
31

31 ページへお進みください。

米国関税も盛り込んで、そして為替を、ドル 142 円、ユーロ 160 円、元 19.5 円と設定した上での業績予測です。

売上は約 5%成長の 5,350 億円、営業利益は 4.5%増の 915 億円を予定しております。

2026年3月期 売上高・営業利益増減要因



32

32 ページへお進みください。

その詳細ですが、売上はダイアグノスティクス事業で 7.7%の成長を見込み、加えて、メディカルロボット事業で 46.3 億円の増収を計画しています。

そして、ダイアグノスティクス領域での新たな成長要素と書いていますが、今のわれわれのグローバルネットワークを活用する形で、他社さんとの協業を進めた部分を成長要素と見込んでおりまして、それを 100 億円程度見込んでおります。

これに為替影響をマイナスして、5,350 億円としております。

また、営業利益は、増加要因としては、売上増に伴う粗利の増加、そして一過性要因、減損の解消に加え、原価改善等と記載しておりますが、これには例えばシスメックス アイノスティクスのシャットダウンの効果やライセンス費用の減少、ダイアグノスティクス事業およびメディカルロボット事業での原価率改善といった複数の要素を含んでおりますが、これで 40 億円を予定しております。

これに対して減少要因としては、販管費の増加、米国関税の影響、為替の影響があり、結果として 915 億円を計画しております。

中期経営計画に対する2026年3月期通期予想



計画策定時から外部環境変化などを考慮し、柔軟かつ戦略的な計画へ再設計

(億円)	中期経営計画 (2026年3月期目標) *2023年5月公表		2026年3月期 通期予想	
	当初計画	構成比	実績	対当初計画
売上高	5,600	100.0%	5,350	95.5%
営業利益	1,120	20%	915	81.7%
ROE	16%	—	12%	△4.0pt
<分野別 売上高>				
ヘマトロジー分野	2,970	—	3,080	104%
尿分野	430	—	430	100%
血液凝固分野	930	—	900	97%
免疫分野	400	—	265	66%
ライフサイエンス	310	—	250	81%
メディカルロボット事業	270	—	100	37%

- ・売上高は**堅調に推移**
- ・社内デジタル化が計画より遅延し、**投資が拡大**、収益性・生産性向上も**想定より遅れ**
- ・XRシリーズ導入効果や新興国加速により**順調に進展**
- ・北米でのUNシリーズの販売拡大などにより**順調に進展**
- ・販売地域拡大により伸長も、米国でのCNシリーズ認可取得に時間を要し、**想定より若干の遅れ**
- ・中国での集中購買の影響などにより、**想定より遅れ**
- ・ピボットにより事業全体の見直しを行っており**想定より遅れ**
- ・立上げに時間を要すも、設置台数および症例数は順調に増加。リース設置が多いため、売上は**想定を下回り**、**台数ベースでは約1年遅れ**

33

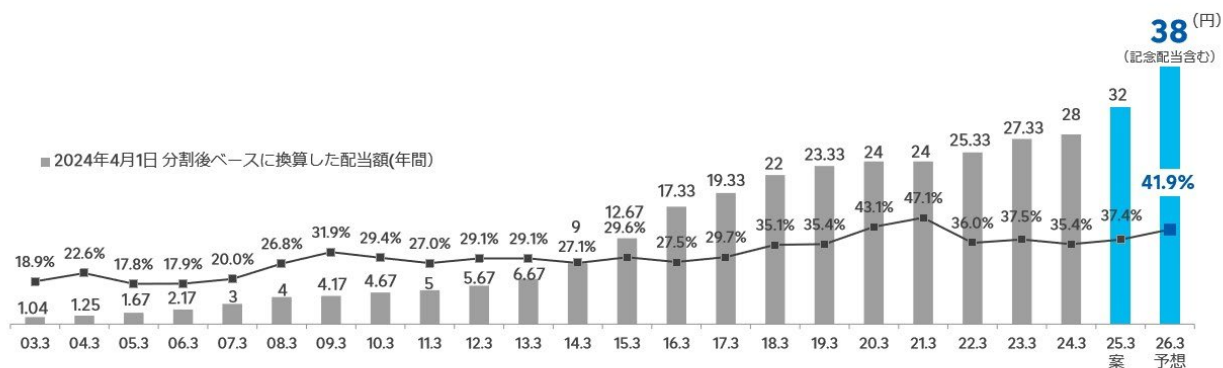
33 ページへお進みください。最後に、中期経営計画の目標値と2026年3月期の計画値の差を示しております。

ヘマトロジー、尿、血液凝固分野はほぼ予定どおりですが、免疫分野、ライフサイエンス、そしてメディカルロボット事業はビハインドとなっております。

新配当方針および2026年3月期 配当予想



株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行う基本方針のもと、**連結での配当性向を40%目処に累進配当**を行う



34

34 ページへお進みください。最後に、配当です。

配当については、冒頭申し上げたとおり、配当性向 30%から 40%をめどとするとともに、累進配当としたいと思います。

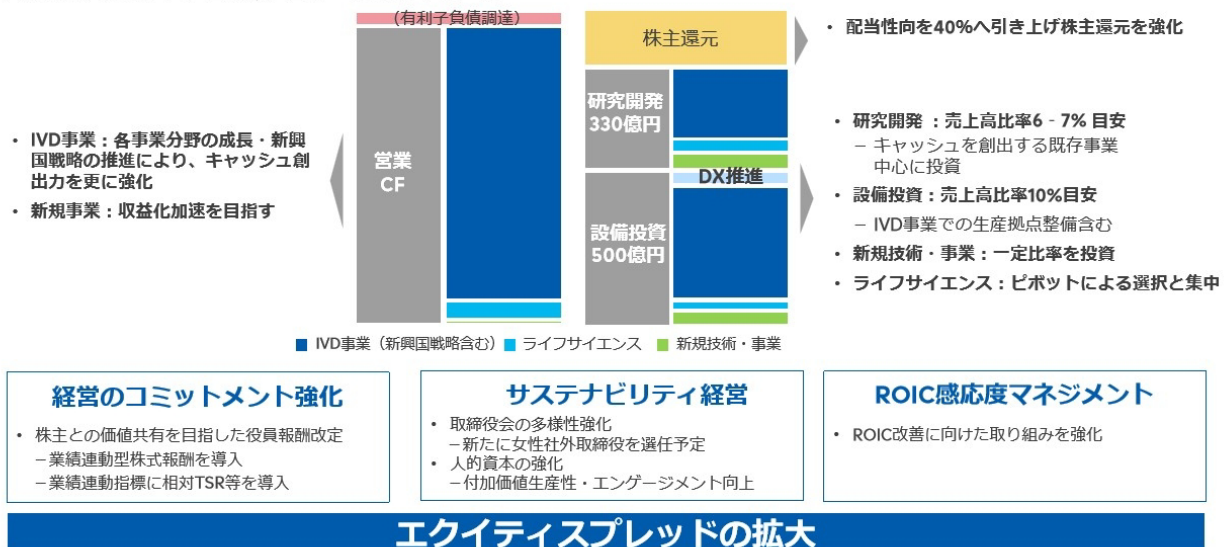
この方針のもと、2026 年度 3 月期は、6 円の増配で 38 円としたいと思っています。

以上で私の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

資本コストや株価を意識した経営の実現



■ 2026年3月期 キャピタルアロケーションイメージ



36

飯塚：飯塚でございます。これから、3枚ほどのスライドは、私のほうでご説明させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

スライド 36 でございます。

本来は中計期間中のスパンで、こういったキャピタルアロケーションをお示したかったのですが、こちらに示しておりますのは、今年度、2026年3月期のアロケーションのイメージでございます。

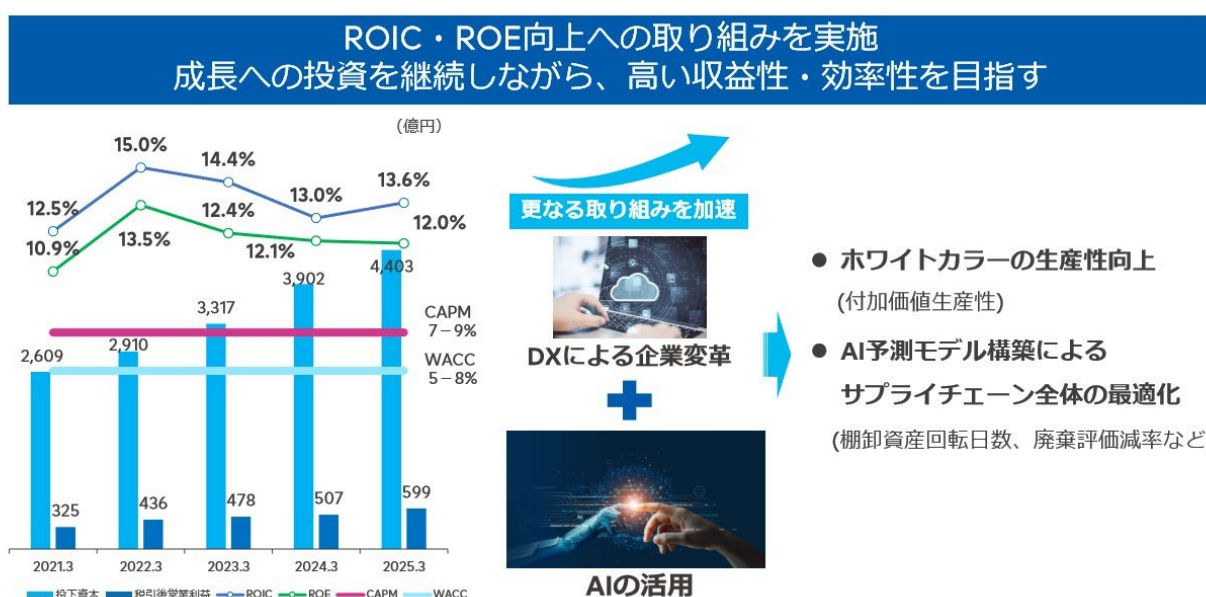
基本的な考え方といたしましては、主力事業でありますIVD事業から得られるキャッシュの創出力を高めることと、昨年度から本格的に実施しております、ライフサイエンスにおけるピボットをさらに推進することで、ライフサイエンスについても収益力を高めたいということでございます。

そうして生み出されたキャッシュを、先ほど浅野からの説明にもございましたけれども、配当性向40%を目指すということで、株主還元を強化していきたいことを考えております。残りのアロケーションのイメージ、お示しておりますとおり、基本的には一番キャッシュを生み出すIVD事業に対する投資ということで、特に将来におけるデジタル医療や新たな技術革新、そういったものへの投資を中心に研究開発、それから設備、設備につきましては、新しい工場や試薬リリース、機械も含めてでございますけれども、基本的にはIVDを中心に投資してまいりたいと思っております。

ライフサイエンスは、先ほどもご説明したとおり、ピボットと連動する形で、基本的には収益性と市場の成長性を見ながら、特に将来の収益が見込める分野にフォーカスして、投資してまいりたいと思っております。

それから、残り、新規事業や技術こちらにつきましても、一定の枠内で投資を継続するという一方で、全体の投資配分を行ってまいりたいと思っております。ただ、こちらは当然、1年間でございますけれども、柔軟にそれぞれキャッシュを生みながら対応していきたいと考えておりますし、有利子負債の調達につきましては、機動的に必要なに応じて進めていきたいと思っております。

ROIC、ROEの推移および今後の向上に向けて



スライド 37 でございます。

お示ししておりますとおり、ROE や ROIC は、2021 年 3 月期、一番左側、こちらは COVID-19 の影響を受けておりますが、それ以後はあまり大きな変動はないと思っております。

こちらは、運転資本の増加やデジタル化投資をはじめとする投資、無形資産の増加などが主な理由と考えておりますけれども、こちらにつきましては今後改善する方向で、取り組みを強化していきたいと考えております。

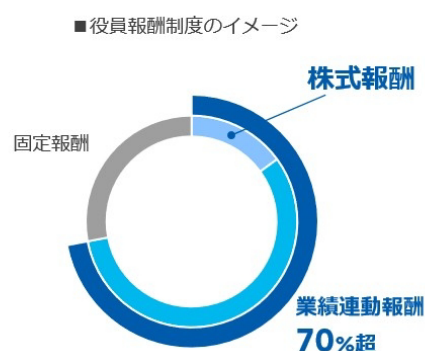
特に、先ほどの浅野の説明にもございましたけれども、デジタル化投資が一巡してまいりましたので、今後は新たなオペレーションの仕組み、システム、それからフローに、こういった AI 予測モデル等も

加味しながら、ホワイトカラーの生産性やサプライチェーン全体の最適化を図ることで、より ROIC・ROE を上げていきたいと考えております。

役員株式報酬制度の導入について（2025年8月運用開始）



役員報酬と業績・株価の連動性を高め、株主との価値共有



- 業績連動型株式報酬を導入
役員報酬 BIP※1信託の仕組みを活用し、株式市場から取得
- 業績連動指標は、中期経営計画毎にその時の経営環境に応じて設定

財務指標

- ✓ 売上高
- ✓ 営業利益率
- ✓ ROE

企業価値指標

- ✓ 相対TSR※2
- ✓ 付加価値生産性
- ✓ プロダクトロスのゼロ化
リサイクル・環境配慮材料への完全代替

※1 BIP：Board Incentive Plan、会社が取締役等に対し、インセンティブの付与を主たる目的として在任時または退任時に自社株式を交付するスキーム

※2 相対TSR：TSR(投資家に対する総合的なリターン(値上がり益+配当金))をベンチマーク企業と比較したもの

38

スライド 38 でございます。

こちら先ほど少し触れさせていただきましたけれども、このたび新たに役員株式報酬制度を導入したいということで、提案したいと思っております。

従来の役員持株制度、それから非定期ではございますけれども、これまで数回にわたって実施してまいりましたストックオプションを統合する形で、新たに、こういった株式報酬、かつ業績に連動する形の株式報酬制度を入れることで、役員報酬全体における業績連動比率を、70%を超えるような形で進めてまいりたいと思っております。

業績指標につきましては、お示しのとおり、財務指標、それから非財務、企業価値指標ということで、その中には相対TSRなども含めておりますけれども、こういった形で、株主の皆様との価値を共有するような株式報酬を進めてまいりたいと考えております。

シスメックスの株価・EPS・PERの推移



※株式分割後ベースに換算した数値 2024年4月1日付 (1:3)

39

スライド 39 につきましては、参考資料ということで、こういった株価、EPS、PER を含めて、財務指標もきちっといきながら、経営を進めてまいりたいと思っております。

簡単ですが、私の説明は以上でございます。どうもありがとうございました。

以上